

日本の火山活動概況 (2007年7月~8月)

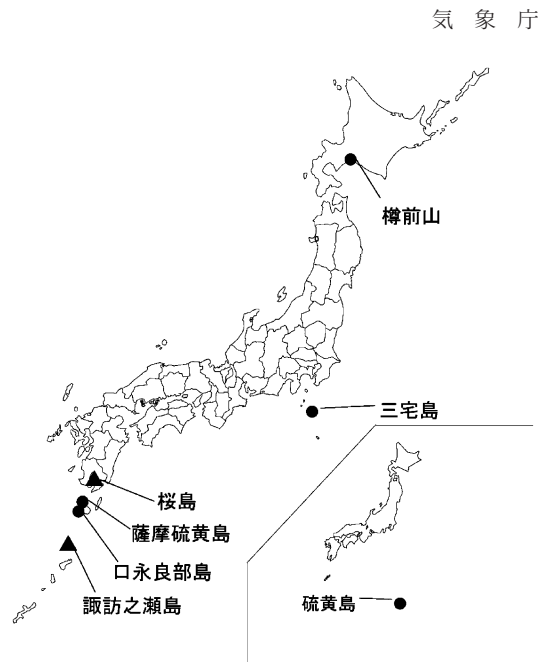


図 1. 2007年7月~8月に目立った活動があった火山
 ▲: 噴火した火山
 ●: 活動が活発もしくはやや活発な状況であった火山

●樽前山 (42°41'26"N, 141°22'36"E)

7月27日及び8月27日に行った現地調査では、A火口の温度は約520°C¹⁾と、高温の状態が続いていた。また、B噴気孔群も状況に変化がみられていないことから、引き続き高温の状態が続いていると推定される。

地震活動は低調な状態で、地殻変動に特段の変化はなかった。

¹⁾ 5m離れた地点から赤外熱映像装置により測定

●三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

期間中、島内でDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測を8回行った。その結果、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,300~6,400トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いていた。なお、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地

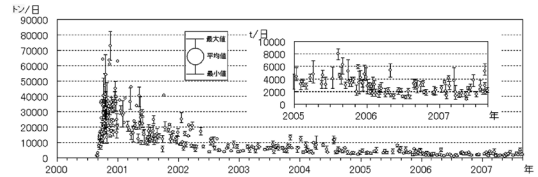


図 2. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年8月~2007年8月)

震のほとんどがやや低周波地震(約3~10Hzが卓越する地震)で、高周波地震(約10Hz以上が卓越する地震)も時々発生した。その他にも低周波地震(約3Hz以下が卓越する地震)が2回発生した。震源はいずれも山頂火口直下浅部と推定される。火山性微動は観測されなかった。山頂火口の噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。

全磁力観測では、火口直下の熱帯磁が鈍化しながらも続いている。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮と深部の膨張が継続している。

●硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、島全体が大きく隆起する地殻変動が継続しており、地震活動は回数がやや多いものの落ち着いた状態で推移している。

▲桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

8月4日に南岳山頂火口で爆発的噴火が発生した。昭和火口では2007年6月20日以降、噴火は観測されていない。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

期間中、島内でDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測を8回行った。その結果、二酸化硫黄放出量は一日あたり200~1,100トンであった。二酸化硫黄放出量は2007年5月の昭和火口噴火直後に一日当たり1,000~2,000トンと一時的に増加したが、6月以降は再び減少して数百トン程度で経過している。

国土地理院のGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状

態が続いており、噴煙高度は火口縁上 100~200 m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くが B 型地震で、A 型地震 (P 及び S 相が明瞭な地震) も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどが A 型地震と BL 型地震 (約 2 Hz 付近が卓越し、P 及び S 相が不明瞭な地震) であった。その他にも、BT 型地震 (コーダ部が一様にゆっくりと減衰する地震) が時々発生した。A 型地震の震源は新岳火口直下浅部に求まり、BL 型及び BT 型地震の震源は求まっていないが、新岳火口直下のごく浅い所と推定される。

GPS 連続観測では新岳の膨張傾向は、昨年 12 月以降鈍化しつつも継続している。

遠望カメラ (新岳火口の北西約 3 km に設置) による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、7 月 26 日から 30 日にかけて小規模な噴火がたびたび発生し、また、この頃に B 型地震や火山性微動も一時的にやや増加した。そのほか、8 月 31 日にも小規模な噴火が発生した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○教員公募

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助教 1 名
2. 所 属: 地球計測部門
3. 研究分野: 総合測地学

衛星重力ミッション、InSAR、GPS、絶対/相対重力測定などの測地技術を総合的に駆使して、地震・火山活動に関する先端的研究を推進する方を募集します。測地分野での経験は問いませんが、解析や理論展開に高い能力を持つとともに、チームで協力して実施する観測にも積極的に携わる柔軟さが求められます。また、採用後は本学教授・准教授と協力して、大

学院教育にも携わる予定です。

4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 博士の学位を有する者 (外国での同等の学位を含む)
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満 55 歳を超えることとなる者については、所属する分野の職に任期を定め、その職の任期は 5 年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は 1 回限り可。(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない。) また、本公募により雇用された助教は、採用後 10 年を目処に教授会による研究業績等の総合的評価が行われる。

なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類: 【提出書類は返却しません】

- (1) 履歴書 (市販用紙可)
- (2) 業績リスト (査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
- (3) 主要論文の別刷り 3 編程度 (コピー可)
- (4) 研究業績の概要 (2000 字程度)
- (5) 今後の研究計画 (2000 字程度)
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方 (2 名) の氏名と連絡先と e-mail アドレス

8. 公募締切: 2007 年 10 月 31 日 (水) 必着

9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所附属地震地殻変動観測センター 佐野 修

TEL: (03)-5841-892 FAX: (03)-5841-8265

E-mail: osano@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先:

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム (人事) 宛
封書を用い、表に「総合測地学 助教応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

11. その他: 応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 10 日送信しました)

○テニュアトラック助教公募

【信州大学大学院】

1. 職名および人員: テニュアトラック助教 1 名
2. 専門分野: 地質学
専門分野のキーワード: フィールド地質学, 山岳科学, 地殻物質科学
3. 応募資格・条件:
 - (1) 博士の学位を取得後 10 年以内の若手研究者